

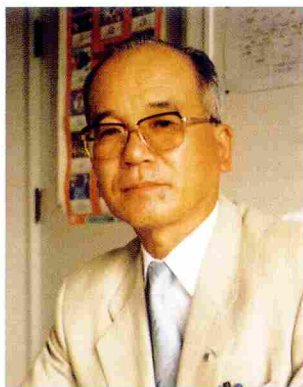
ふらべじ

Vol. 1 1996.
8.30
開所記念号

Flower&Vegetable

発行 北海道立花・野菜技術センター 滝川市東滝川735 TEL(0125)28-2800 FAX(0125)28-2299

花・野菜技術センターができました



スタートにあたって

当センターは、北海道立農業試験場における花と野菜の中核的研究機関として、技術開発と企画調整機能を備えた研究部門と、開発された新技術を重点的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に技術研修を行う普及指導部門を設置しています。これまでとはひと味違った専門試験場として整備され、関係者からは極めて大きな期待と関心が寄せられています。

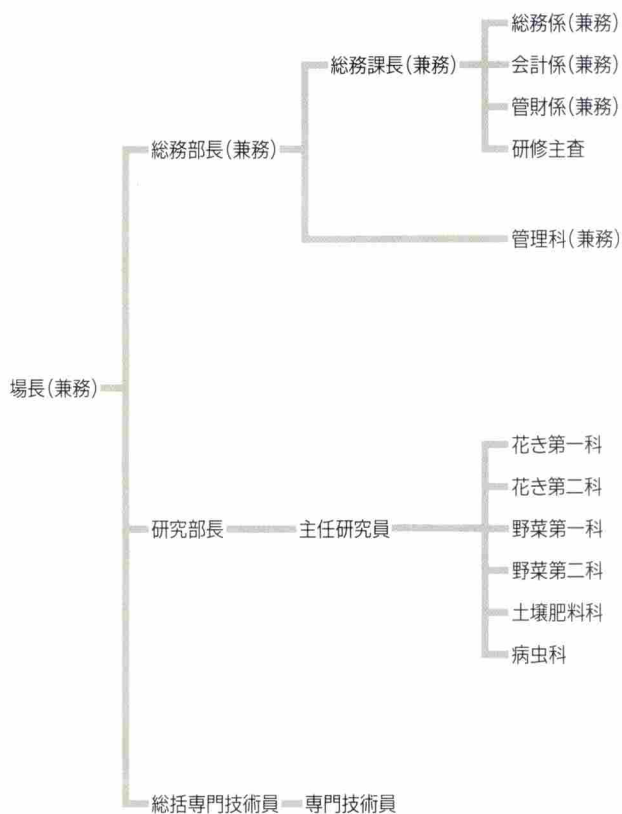
そのため、関係する試験場と連携し、それぞれの機能分担を図りながら、北海道の冷涼な気象条件に適応し、将来的にブランド化が期待される重点品目について効率的な試験研究に取り組んでいきます。また、研究成果の総合化を図り、普及・研修へ円滑に移行される体制を確立するため邁進していきます。

当センターに寄せられる期待を裏切らないよう全職員が一丸となって、成果を挙げるべく努力していきます。皆様方の絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

場長 米田裕紀

花・野菜技術センターはこんなところだ！

組織



(兼務)は滝川畜産試験場と兼務、33名(研究職員19名)



〈研究部門〉

限りない美しさと味わいを極めて

研究部長 宮浦 邦晃

中央農試園芸部から花き・野菜関連科が分離し、花・野菜がそれぞれ2科に強化され、土壌肥料と病虫の環境部門が加わり研究部は6科体制となりました。全道の花き・野菜に関する試験研究の調整を行う中核的研究機関として新品種育成、栽培技術に関する試験を環境部門と連携を取りながら実施します。また、研究成果を普及し、全体的な生産技術のレベルアップを目指した研修制度の体制を整えていきます。

◎花きに関する試験

花き第一科は主要花きを担当し、花ユリの育種を継続するとともに、アルストロメリアの品種・栽培試験を行います。花き第二科は、デルフィニウム類の育種を実施しながら鉢花やトルコギキョウの品種・栽培試験を実施します。また、花きの保鮮技術に関する試験も担当します。

◎野菜に関する試験

野菜第一科では主としてメロンの育種など果菜類の品種・栽培試験を担当します。野菜第二科では新たに食用ユリの育種を予定しているほか、タマネギなど葉茎菜類の品種・栽培試験を実施します。また、野菜の保鮮・流通技術に関する試験も担当します。

◎環境部門における試験

土壌肥料科では、クリーン農業関連課題や野菜の連輪作試験を実施します。病虫科では、花・野菜の病害虫防除試験や野菜の連作障害に関する試験を実施します。



〈普及部門〉

新しい技術をより広く、確実に伝えていく

総括専技 伊丹 清二

当センターの開設に伴って、今までの岩見沢専技室(中央農試稲作部)が閉鎖となり、新たに通称「滝川専技室」として、当部門が発足しました。花き・野菜・病害虫・土壌肥料・畜産・普及指導活動の6名の専門技術員が配置されています。

担当区域は、主に道央ブロックの空知・石狩支庁管内を受けもっています。中央専技室(中央農試)に配置されていない専門項目の花き・野菜・病害虫・畜産に関しては、後志・胆振・日高を含めた5支庁管内を対象に中央専技室と連携をとりながら普及・指導活動を展開しています。

活動内容は、「北海道農業・農村のめざす姿」を指標に、高収益な地域農業の確立、ゆとりのある農業経営の展開、環境にやさしいクリーン農業の推進などを柱として、関係支庁、農業改良普及センター等と連携し、活力のある地域農業づくりのため支援活動を進めています。特に、研究部門が開発した新品種や新技術を迅速に普及し、定着できるよう努めています。さらに、改良普及員や営農指導員、生産者等の多様な要望に応えるため「技術相談室」も設置しています。

また、地域に開かれた「花・野菜技術センター」をめざし、他部門と一体となり、来年度から本格的にスタートする研修事業の準備作業を進めています。



〈研修事業〉

優れた研修環境で、生産技術のレベルアップをめざす

総務部長 樋口 義尋

研修事業では、本道農業発展の起爆剤となる花きと野菜について、多様な消費者ニーズなどに応えていくため、生産技術の総合的なレベルアップを図ることをめざしています。普及事業と合わせ、当センターの柱のひとつとなり、当センターで開発された技術を、普及員等の技術指導者や生産者に普及するため、公開講座や体系的な実践研修を行っていきます。

研修コースは、次の3つが基本となります。

- ①長期研修：期間は1年。研修生を個々のテーマに応じて、研究科に配置し、マンツーマンの指導で、高度な専門技術の習得を図ります。
- ②中期研修：期間は3カ月程度。カリキュラムに沿った講義と実習で、基礎的な知識と実践技術の効率的な習得を図ります。
- ③短期研修：期間は1週間程度。当センターで開発した新しい技術や生産における課題等について、公開講座方式で迅速な技術普及等を図ります。

このほか、開かれた試験場をめざし、消費者や婦人農業者等を対象にしたフラワーアレンジメント等の市民スクールを随時開催することとしています。

研修専用の施設としては、

- ・技術研修室
- ・温室2棟(290㎡/棟)
- ・ほ場3面(0.5ha/面)
- ・宿泊棟(個室30、体育館)などを備えています。

以上のように、研修は実践研修にふさわしい試験場ならではの講師陣と整った設備で行われます。さらに、寮の環境も個々の生活に配慮した1人1室、体育館を備えるなど整っています。

なお、研修生の本格的な受入れは平成9年度からを予定しており、現在は各部門の協力のもと、具体的な研修計画を作成しているところであります。



お忘れなく!

みて・きいて・さわって・体験

公開デーは9月6日です!!



広い場内を巡回バスに乗って、見てまわろう。
畑では色とりどりの花たち、美味しそうに育った野菜たちが
みなさんに会えるのを、楽しみに待っています。

屋外展示



- 花・野菜の種苗展示
- 滝川畜試で改良された豚・鶏・羊
- 花と野菜の相談コーナー
- 羊の毛刈り実演(10:30、13:00)
- キャベツ収穫機の競演会(11:00、13:00)
- 北海道切り花品評会
- ほ場見学、スライドによる場内案内



公開実験室

- 遺伝子DNAの正体とは?
- フンと堆肥のにおいの違いは?

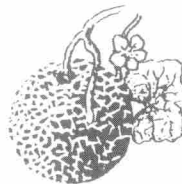


味くらべ

- 畜試産の豚肉、鶏肉の味くらべ(13:30)
- メロン、コーン、ラム肉試食(12:00)

屋内展示

- パネル、写真、ビデオでの研究紹介
- 毛糸の紡ぎ体験コーナー



開催日時：9月6日(金)午前10時～午後3時

お問い合わせ先：TEL0125-28-2800(花・野菜技術センター)

TEL0125-28-2211(滝川畜産試験場)

〈編集後記〉

★先日初めて大田市場を見学し、せり人や仲卸の方にお話を伺いました。皆さん「情報の大切さ」を強調され、いかに情報をキャッチし、適確に利用するかが成功のカギを握るのだということを熱く語っていただきました。いわゆる情報化社会一巻にはマルチメディア、電腦なんか、ハイパーなんかという言葉が氾濫しているけれど、本当に必要なのはやっぱり人と人とのコミュニケーション、相手が何を考えているかを思う心なのですね。私たち研究員もいろんな角度から花や野菜のことを勉強して、広い視野をもった生産支援ができるようがんばらなくては。
“ふらべじ”は生まれたばかりです。皆さんのお力を得ながら、楽しく実のある広報誌に育てていきたいと思っています。よろしくお願いします。(アラレ)

★アラレ編集長の采配で第1号ができました。第2号以降がんばります。(Y・O)

★当センターがスタートしてはや5カ月。外はまだ外構工事の途上ではありますが、なんとか平穩無事に広報誌なるものを発行することができました。タイトルの“ふらべじ”は、「Flower & Vegetable」の意味で、センターの職員から公募して選んだものです。ちょっと聞き慣れない“ことば”ですが、本誌の回を重ねるごとに愛着が増して立派な名前に成長することを願っております。

さて、今回の内容はおっぱらセンターの紹介としました。次号からは中身がガラッと変わって、花・野菜の役立つ技術や楽しいコラムなどが登場し、おもしろさは倍増です。年数回の発行を予定していますが、移ろう花のように本誌の“色”を感じていただければ幸いです。では、次号を乞うご期待!(H)

★何はともあれ、“ふらべじ”創刊、御苦勞様でした。(K)